

サーチライト With Pastor Jon 番外編 過越し祭の子羊 パート 2 出エジプト記 12 章

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

2 番目はイエスの証、イエスについての証です。これはイエスの預言だけでなく、私にとってはとても実用的なのです。

「どういう意味？」

兵士は二人の強盗のすねを折りましたね。しかし、主のすねは折らなかった。なぜですか？ 別の羊飼いが答えてくれるでしょう。その人は、職業的には羊飼いで、その本性は羊です。彼の名はダビデ。イザヤ書には、私たちはみな、羊のように墮落してしまうと書いてあります。羊飼いで、羊でもあるダビデも墮落しました。その話をご存知ですね。彼は姦淫を犯し、それを隠蔽するために人をも殺しました。そうして 7 か月間ウソをつき通しましたが、その時預言者ナタンが遣わされます。ダビデは否定して否定して否定して否定して、否定している間、悶え苦しみ傷ついていました。自分が卑劣な嘘つきだと分かっていたから。彼はできる限り上手く殺人の罪を隠蔽しましたが、いつかその罪を責められる日が来ることは自分でも分かっていた、確かにその通りになってしまいました。詩篇 51 篇。ダビデは主を呼び求め、自分の罪を告白し、強情さを認めています。彼は迷い出た羊のようでした。そしてこう言ったのです。この箇所は実に興味深いみことばで、今学んでいることと関連性が深いので、ノートを取って後で確認して下さい。詩篇 51 篇。ダビデは大変な罪を犯したことを認め、主の憐みを叫び求め、完全に贖われることを願っています。

私に、楽しみと喜びを、聞かせて下さい。そうすれば、あなたがお砕きになった骨が、喜ぶことでしょう。

(詩篇 51:8)

これは、羊飼いの言葉です。ダビデは羊飼いでした。「あなたがお砕きになった骨が、私を喜ばせます。主

よ、私に楽しみと喜びを再び聞かせて下さい。」これは、羊飼いだっただビデがしていたこと、聖書時代の羊飼いたちが行っていたことです。子羊が何度も群れから離れて、オオカミがうろついたり毒草が生えている場所へ迷い出る時、羊飼いはその子羊をつかんで脚の骨を折ります。「なぜ、そんなゴッドファーザーみたいなことを？」いいえ、そうではなくて、それは愛と憐み、優しさの行為なのです。子羊の前脚を折った後、その骨が元に戻るまで、すぐに群れから離れて歩き回る癖のあるその子羊を、羊飼いは5-8週間、自分の肩に担いで世話をします。すると、5-8週間後、その子羊は羊飼いから離れなくなっている。羊飼いになつて絆が深くなっているのです。

骨が癒えて自力で立った時、子羊はどうなると思いますか？ 子羊は羊飼いのそばから片時も離れません。これが、ダビデが主に向かって語っていることでした。「主よ、あなたは私の骨を折られました。私はあなたから離れてしまいましたから。今、主よ、私に再び喜びを与えて下さい。私は教訓を学んでいますから。」

ではここで、十字架にかかったイエスについて見ます。兵士たちは二人の強盗のすねを折りました。なぜなら彼らは、あなたや私、全ての人間のように墮落した羊だから。

しかし、イエスは神の小羊で、一度も罪を犯したことがなく、絶対にすねを折られることはありません。絶対に骨を折られることはない。骨を折られるのは、道から外れる羊、迷い出た子羊だから。イエスは「わたしはいつも父のみこころにかなうことを行う。」と言いました。イエスは罪もしみも全くない、神の聖なる小羊です。「子羊の骨を折ってはならない。」と神が言うのは当然です。

ところで、もしかしたら、今日ここにいるあなたも、この2-3週間に骨を砕かれたかもしれません。そして「どうなってるんだ!」「どうして今、こんな痛みの中で苦しんで、惨めな思いをしてるんだ!？」と思っているかもしれません。それは、あなたが道から迷い出たためかもしれない。口笛を吹いて（* wolf whistle : 魅力的な女性を見た時に男性が吹く口笛）、若い女性の所へ行こうとしているからかもしれない。それを神がご覧になって、「それはあなたのために良くない。このままでは、あなたは破滅し、食べ物にされ、消し去られてしまう。これらのオオカミに気をつけなさい!」それでもあなたがそちらへ行こうとするなら、神は言うでしょう。「あなたを苦しめるためではなく、最終的に守るために、わたしはあなたの骨を折る。しばらくは…1か月か2か月、1年或いは2年は痛むだろう。でもそうすることで、あなたはわたしから離れなくなる。」神は「そこには不品行がある。」「そこにはホップであれ、ハーブであれ、草であれ何であれ、マリファナのような有毒なものがある。」と言っているのかもしれません。それで、ポキッ! ポキッ!

そして私たちは言うのです。「神よ、こんなことをするなんてひどい!」いいえ、違います。神はゴッドファーザーではなく父なる神。あなたのことを本当に大切に思っています。あなたがそれらの麻薬使用者や不品行な人たちの周りをウロウロしていると、あなたは“ラムチョップ”になって食い尽くされ、消し去られてしまうでしょう。だから、ポキッ! ポキッ! 「主よ! 何をしますか!!」その途端、あなたは再び自分に気づき、教会に行つて罪を告白し、歌を歌っている。以前、外をウロウロしていた頃にはやってなかったのに。それが神。それが神のやり方です。その事実を理解して「主よ、分かりました。」と言うのです。ダビデさえ、あの日言いました。

私に、楽しみと喜びを、聞かせて下さい。そうすれば、あなたがお砕きになった骨が、喜ぶことでしょう。

(詩篇 51:8)

「主よ、処置をなさって下さい。そして、私がかつていた場所、私がいるべき所に戻して下さい。」

3 番目。これで終わりです。イエスに関する預言だけでなく、イエスの証だけでもなく、No.3 はイエスの中に在って受ける勝利と自由。私たちが目を向けるべきは、イエスの中に在ることでもたらされた自由。あなたは言うでしょう。「ジョン、私はウロウロとさまよっていたんだ。」「行ってはいけない所まで行ってしまった。」「悪い事もたくさんした。」

注意してよく聞いて下さい。私たちは誰でもみんな、羊のように道から逸れてしまいます。聖書に書いてある通り、誰もがみんなさまよっている。それは事実です。

だけど、パウロはローマ書 5 章でこう言いました。読んでみましょう。

律法が入って来たのは、違反が増し加わるためです。(ローマ 5:20)

律法が来ると違反が増えるというのは、違反がはっきりと分かるようになるということ。どういうことかという、あなたがバイブルスタディーに行ってみことばを聞いたなら、突然発見するでしょう。「なんてことだ! 私は思っている以上に罪人じゃないか!」

みことばの中に入れば入るほど、正しい道からほど遠いことが分かってきます。「私は罪人…」 「私は敗北者…」 その通り! 皮肉なことに、みことばに浸れば浸るほど、プライドはどんどんなくなり、神の恵みにびっくりする。よく聞いて下さい。“律法が入れば違反が増し加わる” というのは、自分がどれだけ違反してきたか、どんなにひどい状態だったかが分かるということです。

しかし! すごいことに、しかし! 素晴らしいことに、

罪の増し加わるころには、恵みも満ちあふれました。(ローマ 5:20)

罪の増し加わるころには、恵みも満ち溢れる! 聞いて下さい。罪のあるところに恵みもある。大きな罪があるところには、大きな恵みがあります。とてつもなくものすごい罪があるところには、とてつもなくものすごい恵みがあり、宇宙並みの罪があるところには、宇宙並みの恵みがある。このように、罪が増し加われば、恵みも増し加わるのです。

「それなら、罪の中に飛び込んでもイイってこと?」もちろん。ポキポキと骨を折られることがお望みならば。

しかし実はこうです。罪のあるところには、恵みももっとある。分かりますか?

だから神は、過越しの子羊について、愛する小羊イエス・キリストを指して、あの日こう言ったのです。

「その骨を折ってはならない。」(出エジプト記 12:46)

子羊であれ人間であれ、血液は骨の中で作られて補充されています。例えば赤十字に行って、1 ガロン (約 4ℓ)、いや、それは良くない…例えば、1 パイント (約 500 cc) の献血をして、それから 2 週間ごとに献血したとしても、失血で死ぬことはありません。体の中、骨の中で血液が作られているから。ブリタニカ百科事典で調べるか医師に聞いてみて下さい。説明している時間はありませんが間違いなくそうです。血は骨の中で生み出され供給される。だから主は言うのです。「この小羊の骨のどんな骨も折ってはならない。どんなことでも、イエスの血に限界があると考えてはいけない。絶対に! 小羊の骨を折ってはならない! 罪の増し加わるころには、恵みが更に増し加わることを人々が理解するためだ。イエスの血には限界がない。彼の血は欠乏しない。」その血、イエスの血。それは十分で、いつも受けることができ、パワフルでどんなことにも有効です。イエスの血に限界はありません。小羊の血。罪の増し加わるころには、恵みももっと増し加

わる。それが私の勝利であり、私の自由。イエスに在っての自由。イエスが私のためにして下さったことで与えられた自由です。イエスが木にかけられた時、骨は1本も折られませんでした。私の代わりに死んで下さったことは、驚くばかりの恵みです。今、私は洗い流され、清められ、自由であり、たとえ私が罪を犯しても、罪の増し加わるところには、恵みがもっとも増し加わることを知っています。これが福音。良い知らせなのです。

主よ、はるか昔、エジプトを脱出した時に、あなたがなぜ「骨を折るな」と言われたのか、それは預言であり、証であり、自由だからだ、ということが今日分かりました。

イエス様、あなたの骨が砕かれなかったことを感謝します。それは、私には良い知らせであり、生きていく上で私たちへの良い手本、良い教訓ですから。

主は、彼の骨をことごとく守り、その一つさえ、砕かれることはない。

悪は悪者を殺し 正しい者を憎む者は罪に定められる。

主はそのしもべのたましいを贖い出される。

主に身を避ける者は、だれも罪に定められない。(詩篇 34:20 - 21 新改訳)